

ゴ"4"  
1 □ 日本数学史と中国数学史の研究

□ これから前回の続きと ~~して~~ して、数学史の研究につい

て申しましよう。まず、日本<sup>と</sup> ~~及び~~ 中国の数学史から始め

ます。

□ 前回に~~東京大学~~ 東京大学における和算の調査についてちよ<sup>と</sup>と



觸れ  
 ました<sup>が</sup> 1895年から菊池大麓先生が主任で、遠  
 藤利貞さんらの協力で始めた調査は、菊池先生が大学を  
 去る1899年まで続<sup>きま</sup>した<sup>た</sup>のです。~~その後~~、菊池先生は  
 1906年から帝国学士院でこの仕事を再びやりだしまし  
 た<sup>が</sup>、そのときも遠藤~~利貞~~さん<sup>は</sup>調査を担当した~~のであり~~



~~ました~~が、~~遠藤~~さんは「増修日本数学史」を遺稿と~~して~~

して1915年に<sup>亡</sup>~~な~~りまし<sup>た</sup>~~たので~~。三上義夫さんも1908

年から学士院で仕事を<sup>はじ</sup>~~して~~たので<sup>す</sup>~~た~~が、菊池先生

が1917年に<sup>亡</sup>~~な~~り<sup>主任が</sup>~~て~~、藤沢先生<sup>に</sup>~~主任~~と<sup>変</sup>~~な~~り、三

上さんは1923年に48歳で学士院を去らなければなら



な っ け っ た 。 ~~そして~~ <sup>今度</sup> ~~二と三人の後には~~ は 80 歳 にな 人 を

人 と す る ~~年をい~~ 岡本則録先生が 入 った の で す が 1931

年 に 和 算 書 目 録 を 完 成 し な い で ~~な~~ <sup>りま</sup> ~~な~~ <sup>た</sup> ( た )

□ 1907 年 に 関 孝 和 の 200 年 忌 に あ た っ て 東 京 数 学

物 理 学 会 に は 関 流 算 法 七 部 書 を 発 行 し ~~また~~ ま た



✓本朝数学通俗講演会✓を開きましたか、その✓講演集✓

(1908年)には、林、狩野享吉、菊池の3先生の講演の

ほか、~~和算家~~の遠藤<sup>さん</sup>と川北朝鄰先生の論文が載~~て~~<sup>り</sup>ま

ております。これに~~たい~~ま申しました岡本~~先生~~先生を

加えます<sup>から</sup>、~~実~~当時のおもな和算研究家があけられる



と思います。岡本先生、狩野先生<sup>の両</sup>は和算史の造詣  
 が深く、ご自分では論文<sup>を</sup>あまり書きませんでした  
 が、しかし他の研究家~~も同様に~~、~~また若い~~た  
 ちを指導奨励して、和算史の研究に相当大きな影響を与  
 えた。



□ 1911年に新設された東北大学では、林鶴一先生がも

つはら和算の研究を<sup>や</sup>始めたので~~まします~~。林先生は18

95年大~~学~~学生<sup>の</sup>時~~代~~から菊池先生の影響もあつて、和

算も始めたのでした。東北大学では<sup>学生の</sup>柳原吉次君が1913

年~~に学生時代~~から和算~~の事を始め~~ましたか、~~藤~~ <sup>をやり</sup>



原松三郎、加藤平左衛門、平山諦をといいた方の研

究は、昭和時代もも進んでからなので、また

三上さんが和算の研究に入ったのは1905年、

アメリカのハルステッドに勧められて和算を西洋に紹介

する目的からで、その業績が菊池先生に認



められて、1908年に学士院の嘱託になつたので~~あつた~~

<sup>として</sup>す、明治末期から昭和の初めにかける<sup>林三上の</sup>~~まーまー~~お二人

研究が和算史の二大焦点をなすので~~あつた~~あが、<sup>そのほかにも</sup>特殊の

研究として矢袋喜一さんの『琉球古来の数学』(1916年)

沢田吾一先生の『奈良朝時代の数的研究』(1927年)など



があり、  
~~また、その他珠算家~~ や郷土史家の方々の研

究もあるの、~~また~~、また東京大学出身の数学者(戦

後は東京教育大学理学部)で和算を研究された細井宗五

後裔  
 人(1901-1961)は和算家の~~生~~でいた、

は和算関係の論文130余篇を残されまはした、  
 口して、林先生の業績の中で最も著しいものの一つは、



その中でも

「伏題と日本数学の行列式」<sup>年</sup> (1910) ~~著者~~ は関孝和

の著述 ~~解~~ 「解伏題之法」という ~~本~~ 中 ~~に~~ 算法が西洋

の行列式とまったく同じ <sup>ことを</sup> ~~著者~~ 見出したのである <sup>有名で</sup>

(も) <sup>つ</sup> も遠藤政之助先生 ~~の教えを受けた東村作三~~

~~手紙によりすると、遠藤先生は~~ 1894年にすでにこの事







いこれで和算がとんをものかが十分に説明されたと言明

のことです

されたと ~~いわれています~~

一方、三上さんの業績に <sup>まじ</sup>は ~~とんをもの~~があるかと申し

~~い~~ ☒ 和漢数学史 ☒ (英文 ☒ ドイツ出版 ☒ 1913年)

この中にある中国の数学史は ☒ 中国数学史の名に値する



最  
 世界で初の~~数学史~~の~~数学史~~数学史です。中国には~~時人~~  
 伝<sup>算家</sup>というように~~数学史~~の伝記のほかには~~時人~~  
 まとま~~た~~た数学史が~~た~~李儼~~錢宝琮~~  
 のような~~数学史~~数学史家は、三上さんのこの書物に刺激  
 されて自~~国~~国の数学史の研究を始めた~~ように~~ように考<sup>思</sup>



~~は~~ <sup>わ</sup> きます。次に ~~ディ~~ <sup>ディ</sup> ミスと共著の「日本数学史」(英文、  
 アメリカ出版、1914年) それから文化史上より見たる  
 日本の数学(1923年) これは日本 ~~における~~ 数学史の研究  
 上画期的な方法論を説いた論文で ~~あります~~ <sup>す</sup> ~~と~~ <sup>支</sup>  
 那数学史 <sup>は</sup> ~~は~~ 1929年に完成した大作で ~~は~~ <sup>す</sup> ~~か~~ <sup>か</sup> 発



印刷を  
行書店の都合で中止し、~~今日まで~~ 遺稿のまま残されて

それから  
おります。 ~~半世紀から~~ 円理の発明に関する論証 (1930年)

~~それから~~  
関孝和伝の新研究の概要 (1932年) 関孝和の業績と

京阪の算家並に支那の算法との関係および比較 (1932 -

といふ一連の論文。  
など  
35) ~~これは17年後に提出し、~~数学論文~~なつたもので~~



~~林先生~~

林先生を初め、何とい<sup>△</sup>ても東北大学系の方々の和算

研究の特色は<sup>△</sup>算法そのものの研究にあ<sup>△</sup>たとい<sup>△</sup>てい

いと思います<sup>△</sup>。三上さん<sup>■</sup>はもちろん算法の研究もやり

ましたが<sup>△</sup>、しかしもっと歴史的<sup>●</sup>文化<sup>史</sup>的方面にも努力を

中  
コン



注がれました。また中国史の先駆者として高く評価され

なければならぬと思います。

口さて、林、三上というこのお二人の価値の高い力作は、

大体 1930 年前後までのものが多く、たゞ、

~~大抵 1930 年前後までのものが多く、たゞ、~~ <sup>9で"が"が</sup> ~~たゞ、~~ <sup>たゞ</sup> ~~一般に~~ <sup>日本では</sup> 1929 年

18



科学史

● 前後から<sup>ア</sup>数学史<sup>ロ</sup>に関する訳著や論文が急に増加<sup>ハ</sup>した。

~~科学史~~の研究が活発にな<sup>ハ</sup>ってきたので~~あきま~~した。

1行ア

2 ロ 一般数学史の研究

● 日本<sup>ア</sup>及び中国の~~科学史~~数学史の研究に比べますと<sup>ハ</sup>明

治末期から<sup>大正年</sup>~~昭和の初年~~間に<sup>ハ</sup>一般数学史ないし西洋数学

8P全角クローン



史について研究の名に値するものはほとんどなか<sup>う</sup>た

い<sup>う</sup>てよい<sup>くらい</sup>です<sup>う</sup>

~~一般的な~~ ~~数学史~~ 通史として ~~ま~~ <sup>も</sup> ~~の~~ <sup>二</sup> 時期に出版された

~~主~~ なものは<sup>う</sup> ホアイエーの数学史 (林先生<sup>う</sup> 訳 1910年)

カジ<sup>う</sup>リ<sup>う</sup> 数学史講義 (天文学者の一戸直蔵先生の<sup>う</sup> 訳)



1918年) の二つある <sup>ばかり</sup>~~にすぎない~~ <sup>それ</sup>~~に~~ 公平な

目で見<sup>ます</sup>~~る~~なら、 20年前のボールの <sup>数学史概要</sup> (中川

将行先生記、 1890-92) に <sup>そんな</sup>~~あ~~さるとは思われな<sup>い</sup>の

で ~~あ~~ます。 ようやく昭和に入<sup>る</sup>~~る~~てから初めて興味

深い数学史が <sup>現わ</sup>~~人の心~~に ~~あ~~てた。 それは



共立社の講座の中<sup>の</sup>~~に~~三上さんの<sup>✓</sup>東西数学史<sup>✓</sup>(高等

数学講座<sup>✓</sup>(1928-29)<sup>と</sup>~~年~~高木貞治先生の<sup>✓</sup>近世数

学史談<sup>✓</sup>(続高等数学講座<sup>✓</sup>1931年)で<sup>す</sup>~~あ~~した。

→  
こういうわけで~~あ~~すから<sup>✓</sup>この時期<sup>代</sup>の<sup>実</sup>事情も<sup>の</sup>具体

的に明らかに<sup>す</sup>る<sup>ま</sup>し<sup>端</sup>~~て~~私は自分が数



学史の研究に出發する 1928年まで ~~1928~~ に数学史につい

てどんな ~~予備~~ 知識をも <sup>て</sup> いたか ~~と~~ について

<sup>上げ</sup> 申 <sup>ない</sup> たいと ~~思~~ ます。

← ☒ 数学史に志す ~~以前~~ 以前

☐ 物理学校在学中は化学 ~~専攻~~ も志して <sup>た</sup> 私 <sup>で</sup> すが <sup>が</sup> ~~た~~ ~~私~~ は

二年の後半から桑木或雄先生の影響で科学史にも興味を



持つようになり、~~また、~~丸善にあつた新刊のフ

ィンク、✓数学史✓の英訳(1903年)も~~求め~~求め

~~て、算術、代数、幾何、三角法、系統的に述べられ~~

本論よりも、~~また、~~卷末に<sup>ある</sup>~~あり~~アルファベ✓ト

順に並べられた数学者~~の~~の~~短い~~短い伝記のほうに興味



ました。 ~~おつたのです。と、~~ 翌年暑中休暇で帰

省 ~~際~~ 丸善に立ち寄りますと、かねて桑木先

生からお聞きしていたマハの「力学史」の最新版(5

版 1904年) が ~~あつたので~~ 早速買い求め

で毎日 御里 ~~に毎日~~ 表片手に毎日お読みは ~~飛~~  
辞書を







又一の業績も~~調べました~~→フ<sup>ィ</sup>ンク<sup>ッ</sup>マ<sup>ッ</sup>ハ<sup>ッ</sup>そのほ

か身辺にあ~~った~~た~~クリスタルの代数~~クリスタルの代数<sup>や</sup>ト

ドハンターの積分学などによ<sup>っ</sup>て一通り~~を~~調べ<sup>●</sup>

それを~~力学~~力学の若い講師の愛知敬一先生にお目にか

けたので~~き~~す<sup>する</sup>~~と~~先生は~~先生~~お



宅の書齋で一タ<sup>△</sup> エンサイクロペディア<sup>△</sup> ア<sup>○</sup> フリタニカ(オ

9版<sup>●</sup> でベルヌーイ伝のある巻<sup>△</sup> カジ<sup>△</sup> リの<sup>✓</sup> 数学史<sup>△</sup>

ボールの<sup>✓</sup> 数学史<sup>△</sup> の三冊を読む <sup>ようにそのことで</sup> ~~ことを許して下さる~~

した<sup>△</sup> その晩はエンサイクロペディア<sup>△</sup> から<sup>○</sup> 多くの伝記的

な<sup>✓</sup> 資料を得ましたけれど<sup>●</sup> ~~そのときにも~~ 時刻が遅く



な<sup>△</sup>た<sup>△</sup>の<sup>△</sup>で<sup>△</sup>カ<sup>△</sup>ジ<sup>△</sup>リ<sup>△</sup>ヤ<sup>△</sup>ボ<sup>△</sup>ール<sup>△</sup>には~~いそいそ~~目を通すこ

ともできないで帰りました<sup>△</sup>が<sup>△</sup>~~いそいそ~~それで~~いそいそ~~<sup>△</sup>べ

ルヌーイ兄弟の数学的生涯<sup>△</sup>~~いそいそ~~<sup>→</sup>をまとめて~~いそいそ~~<sup>△</sup>先

生に提出しましたところ<sup>△</sup>先生はそれを<sup>△</sup>東京物理学校雑

誌<sup>△</sup>の編集者~~いそいそ~~<sup>→</sup>に送<sup>△</sup>つて下さ<sup>△</sup>た<sup>△</sup>~~いそいそ~~<sup>△</sup>は

ので<sup>△</sup>松文



~~157~8号 (1904年12月号, 1905年1月号)~~ に掲載され

また、~~この~~  $x''$  の ~~二番~~ 終りの参考書目の ~~二番~~ 後

半 ~~に~~ にある文献 ~~をいふ~~ は ~~私~~ が ~~その~~ 全然見たこと

とかないもので、これは愛知先生が付加して下されたもの

で ~~あり~~ した ~~い~~ <sup>改行</sup> ~~い~~ <sup>に</sup> ~~い~~ ~~が~~ 申しますと ~~い~~ <sup>私</sup> ~~は~~ カジヨ



リ数学史の初版(1895年) ~~は~~ ~~今日まで見~~ ~~て~~ ~~い~~ ~~ま~~ ~~せ~~

~~人~~ ~~ない本~~ ~~は~~ ~~も~~ ~~か~~ → ホールの数学史(3版, 1901)は

~~は~~ ~~1906年~~ ~~の~~ 郷里 ~~に~~ ~~あ~~ ~~り~~ ~~て~~ → 数学を専攻しようか

どうか ~~と~~ ~~思~~ ~~い~~ ~~悩~~ ~~ん~~ ~~で~~ ~~い~~ ~~た~~ ~~夏~~ ~~丸~~ ~~善~~ ~~か~~ ~~ら~~ ~~取~~ ~~り~~ ~~寄~~ ~~せ~~ ~~て~~ ~~読~~ ~~み~~ ~~出~~

~~ま~~ ~~し~~ ~~た~~ ~~か~~ → 古代や中世 ~~を~~ 飛ばして ~~ま~~ ~~し~~ ~~た~~ ~~か~~ 近世から







した。↑  
 これまで  
~~たまたま~~ は単行本の話で ~~ありま~~ したか、~~それ~~ 雑  
~~誌~~ ~~を~~ ~~載~~ ~~た~~ ~~もの~~ ~~で~~ ~~は~~ ~~な~~ ~~い~~ ~~い~~ ~~ま~~ ~~す~~ ~~と~~ ~~、~~ ~~数~~ ~~学~~ ~~史~~ ~~関~~ ~~係~~ ~~を~~ 数  
 学者の伝記や追悼文 ~~に~~ ~~載~~ ~~せ~~ ~~る~~ ~~の~~ ~~で~~ ~~は~~ ~~な~~ ~~い~~ ~~い~~ ~~ま~~ ~~す~~ ~~と~~ ~~、~~ 藤沢先生のお書きになったエ  
 ルミ ~~と~~ ~~か~~ ~~クレモナ~~ ~~な~~ ~~ど~~ ~~い~~ ~~い~~ ~~ま~~ ~~す~~ ~~と~~ ~~、~~ 三上義夫さんの書かれた



アーベル ☒ カス パリ ☒ ヤコビ などの ~~興味深いもの~~

<sup>で</sup>  
~~が~~ ~~あり~~ ~~ま~~ ☒ した ☒ ことに三上さんが 1905 年に訳され ~~た~~

たハルステ ☒ ヲの ☒ 非ユークリ ☒ ヲ幾何学の使命 ☒ ☒ タ

ールブーの ☒ 幾何学説の発達も論ず ☒ ☒ ホアンカレーの

☒ 数理的物理学の原則も論ず ☒ などの <sup>のた</sup> ~~論文~~ ~~翻訳~~ か



は  
ら ~~は~~ 深い感銘を受けた<sup>●</sup>ので<sup>す</sup> ~~は~~ 。

□ 1911年に東北大学に参りましてから 私は必要ある

たび<sup>史</sup>にカントルの数学~~書~~もところどころ読みました<sup>✓</sup>

1916年の秋に物理学校同窓会で ✓ 科学者としてのレオ

ナルド<sup>○</sup>・ダ<sup>○</sup>ウ<sup>△</sup>ンチ<sup>△</sup>という講演もしました<sup>△</sup> その講



演の下書きをそのまま印刷したものが物理学校雑誌に載

りました

~~ていよした~~

が

~~これは~~

読むに

堪

えな

は

~~はいのま~~

文

解

で

そ

れ

~~は~~

は東北大学の数学教室や物理学教室にある

豊富

な文献を引用

した

走り書き

にす

が

ません

~~は~~

引用

~~は~~

書

~~が~~

文

献の中

には

コントロールの

~~は~~

ほかに



リブリの「イタリア数学史」ポアイエーの「数学史」ギ

エンターの「数学史」デーエムの「静力学の起源」マ

ハの「力学史」ゲルランドの「物理学史」など ~~が~~ が

見えております。また ~~は~~ <sup>はし</sup>読みません ~~が~~ <sup>が</sup> た

くさんの和算書を <sup>跳</sup> ~~も~~ <sup>たり</sup> ~~も~~ ~~こと~~ ~~が~~ ~~て~~ ~~ま~~ ~~し~~ ~~た~~ ~~も~~ ~~た~~ 数



~~林先生~~ 学談話会ではときとき林先生の和算のお話を聞くことが

できました ~~三上さん~~ <sup>は</sup> 三上さんから <sup>✓</sup>「和漢数学史」<sup>✓</sup> ~~(1913年)~~ <sup>ヤ</sup>

~~年~~, スミスとの共著 <sup>✓</sup>「日本数学史」<sup>✓</sup> ~~(1974年)~~ <sup>こ</sup>

~~著~~ <sup>頂</sup> ~~を~~ ~~した~~ ~~き~~ ~~ま~~ ~~した~~ <sup>✓</sup> 大いに ~~おもしろい~~ <sup>啓</sup> 発

されましたが <sup>✓</sup> あまり読みもしないし <sup>✓</sup> 読んでもわかる



はあかちゅうたので ~~あかちゅう~~ <sup>改付</sup> ~~す~~ <sup>そう</sup> して 1917 年に大阪

に移りましたが <sup>△</sup> 間もなく三上さん ~~編集~~ <sup>?</sup> ~~遠藤~~ 先

生の遺著 <sup>✓</sup> 増修 ~~日本~~ 数学史 <sup>△</sup> (1918 年) に接しました ~~た~~

もちろんこれもただ積んでおくだけでした <sup>△</sup> その翌年 ~~た~~

カジヨ <sup>△</sup> リの <sup>✓</sup> 数学史 (再版 <sup>△</sup> 1919 年) が到着し ~~た~~ の



は、留学も前に<sup>た</sup>繁忙のときで<sup>のなり</sup>~~あつた~~、現代

のあたりを拾い読みした程度<sup>です</sup>~~にすぎません~~ →

このようにして私はパリに参加したか~~ら~~、パリでもフ

ートルーの<sup>✓</sup>「数学思想史」(1920年)<sup>✓</sup>、ポアンカレの<sup>✓</sup>科

学者と詩人<sup>✓</sup>(1910年)も読んだ程度にすぎません<sup>✓</sup> 1921



年に帰国して<sup>●</sup>から~~終~~三上さんの<sup>✓</sup>文化史上より

見たる日本の数学<sup>✓</sup>(1923年)に接し<sup>✓</sup>~~いた~~これを読

んで私は非常に打たれたので~~あ~~す<sup>✓</sup>~~これは従来より~~

~~は~~単なる和算の解説で~~な~~ない<sup>✓</sup>~~は~~文化史的なり<sup>✓</sup>は。

な態度に<sup>敬服し</sup>~~私は非常に驚~~ま<sup>て</sup>これから~~終~~三上



さんの論文も~~初め~~<sup>精</sup>読<sup>しよ</sup>うと決心したので~~あ~~

した<sup>△</sup>

□ 帰国後<sup>は</sup>いろいろ~~あ~~多忙で~~あ~~した<sup>△</sup>

~~究と~~相対性理論の研究<sup>に つづいて</sup>~~あ~~変<sup>△</sup>は<sup>✓</sup>「数学教育

の根本問題<sup>△</sup>を出し<sup>●</sup>それから<sup>✓</sup>「統計的研究法<sup>△</sup>」も<sup>●</sup>



書き上げ<sup>ますと</sup>~~二年~~ / 1925年の秋から 1927

年の夏の終りまで<sup>う</sup>二年余り~~二年~~療養生活を送ら

なければならぬ<sup>よう</sup>にな<sup>う</sup>たのです<sup>い</sup> ~~二年~~病床<sup>で</sup>の

~~肩~~<sup>は</sup>肩のこるような勉強<sup>も</sup>できませんので<sup>い</sup> おもに文

学<sup>書</sup>~~本~~文化史~~本~~など<sup>これ</sup>を乱読しました<sup>い</sup> 気分のい



い時分には<sup>PP</sup>東北大学のお身で当時大阪におられた石井  
省吾君に強くすすめられて<sup>PP</sup>1926年から<sup>PP</sup>数学教育名  
著叢書<sup>PP</sup>~~という翻訳物の出版も始めまして、その編集と~~  
校正もや<sup>PP</sup>~~った~~たのです<sup>PP</sup>それはちょうど大正末期か  
ら昭和の初めのことで<sup>PP</sup>数学界では専門化された新しい



世代の人々によ<sup>つ</sup>て専門的に深く立ち入<sup>つ</sup>た新しい研究

が勃興し<sup>つ</sup>つある時期~~から~~<sup>で</sup>~~は~~<sup>した</sup> ~~このような現象も~~ こういう現象も

病床で見送りを<sup>か</sup>ら<sup>う</sup>読んだものの<sup>の</sup>中で<sup>に</sup>私に一番大きな

感銘を与えたものは<sup>に</sup>トルストイの芸術論の終りのほう

にある科学論<sup>の</sup>~~と~~<sup>の</sup>科学のための科学<sup>に</sup>に対する<sup>に</sup>



ーマニステイ<sup>イ</sup>クを激しい批判<sup>した</sup> ~~私は~~ ~~これによって~~ 私は

● 学内研究の態度<sup>に</sup>相当大きな影響を与えた<sup>られ</sup> ~~と思~~ ~~って~~

あり  
ます<sup>。</sup>

## ← <sup>コナ</sup> ● 数学史の研究へ

○ さて、私は1928年から数学史に非常に興味をもつよ

うにな~~って~~りましたか<sup>。</sup> <sup>れ</sup> ~~その~~ はカジ<sup>ョ</sup>りの<sup>。</sup> <sup>。</sup>初等



数学史<sup>△</sup>も訳註したことと切り離しては考えられません<sup>△</sup>

なぜ<sup>△</sup>たくさんの数学史の中から<sup>△</sup>この本を選んだのかとい

います<sup>△</sup>、さきに<sup>△</sup>~~それはあたかも申しました~~<sup>△</sup>数学教育名著叢

書<sup>△</sup>の一篇も東京高等師範の鍋島信太郎さんにお願ひし

~~お~~たところ<sup>△</sup>鍋島さんからカジ<sup>△</sup>ヨリのこの本も訳した



いというお返事がありましたので、それをも予定してお

たのです。ところがその後鍋島さんのご都合で見合わせ

せとな<sup>りまし</sup>たので、~~それです。~~病気回復~~した~~

~~後~~の私は、~~そのと~~数学史<sup>の同好の友</sup>を勉強して

~~長野県~~の~~友~~井出彌門君と相談し、~~人~~急に共



訳することに~~決ま~~  
~~決~~たのです。ところがやりだしてみます

と、~~もうこの本を~~そのまま訳したのでは~~あまり~~面白

~~味~~がないと~~思~~思われました。~~の~~で原書にない

たくさんの挿絵とたくさんの註釈もつけ~~ることにし~~たのです。

そのためにやむを得ずコントロール~~数学史~~(1880~1908)



カジ<sup>△</sup>リ <sup>✓</sup>「数学史」<sup>△</sup>(再版<sup>△</sup> 1919年)<sup>△</sup> ホール (6版<sup>△</sup> 1915  
 年) グライン<sup>✓</sup>「十九世紀数学<sup>展</sup>発展史」<sup>△</sup>(1926年)<sup>△</sup> スミス  
<sup>✓</sup>「稀本算術書」<sup>△</sup>(1908年)<sup>△</sup> スミス <sup>✓</sup>「数学史」<sup>△</sup>(1923-  
 25)<sup>△</sup> トロ<sup>△</sup> フォ<sup>△</sup> (2版, 1922-24)<sup>△</sup> こう<sup>△</sup> ~~い~~<sup>た</sup> ~~も~~<sup>も</sup>  
 参考<sup>て</sup>に ~~1~~<sup>1</sup> ~~本~~<sup>本</sup> ~~が~~<sup>が</sup> 勉強<sup>△</sup> ~~は~~<sup>は</sup> ました<sup>△</sup> ~~が~~<sup>が</sup> それでも不安<sup>△</sup>なの



で、三上さんにお願ひして、~~綿密な~~校~~閲~~していただ~~き~~、

1928年の秋に出版にな~~つ~~たのです。これまで数学史を

系統的に勉強したこ~~と~~ない、また正確な詳~~しい~~史実に

ついてほとんど何一つ知らな~~か~~た私は、この~~本~~註

~~を~~通して~~数学史の~~眼が~~用~~て参りま

かれ

51



1 た. <sup>幸いにして</sup> ~~この訳書は原著者~~ から

も ~~ハー~~ ヴァー トン大学のサートン博士からも好感を持

たれ <sup>た上に</sup> ~~たばかり~~ , <sup>多くの</sup> ~~人々から~~ 読まれ ~~た~~

予想外の成功をした ~~と~~ 思 <sup>た</sup> ます ~~さ~~ ばかりで ~~は~~ を

く ~~これを訳した~~ 私自身を数学史の研究へと導く



ようになったのです。 <sup>DB</sup> 私は考え <sup>ました</sup> ~~たかです~~ このようを数  
 学史の研究なら <sup>た</sup> といえ病床にあ <sup>て</sup> てもある程度までや  
 れる仕事だ <sup>私</sup> ~~のいる~~ 研究所ではあまり喜ばないかも  
 しれない <sup>か</sup> ~~はれ~~ <sup>も</sup> 数学史の研究をや <sup>た</sup> ところそう  
 人に迷惑をかけるわけでもあるまい <sup>あ</sup> あまり人のやらな



いような仕事をする研究所が日本に一つくらいあっても

いいではないか、<sup>DD</sup> ~~こう~~ <sup>思い</sup> ~~主~~ <sup>ま</sup> したので、研究所に迷

惑をかけないように、ほとんど全部私費で研究を始めよ

うと考えたのであります。

☐ ~~さて~~ <sup>お蔭</sup> ~~この~~ ~~訳註~~ ~~を~~ ~~や~~ ~~り~~ ~~ま~~ ~~す~~ ~~た~~ ~~で~~ 数学史に対す

54



る知識は幾分か確かになつてきました。カジリはニ

ュートンを中心<sup>に</sup>、<sup>た</sup>250年間のイギリスの算術ほど低

級をきわめたものは、ヨーロッパの近世算術教育の歴史

の上<sup>に</sup>なかつた<sup>た</sup>、~~その原因の説明が非常に物足りなく感じました~~強調して<sup>ちが</sup>おりま~~した~~

~~その原因の説明が非常に物足りなく感じました~~

され

FF



ので、私はケンブリッジの古本屋から、<sup>17</sup>16世紀の算術書

~~の古本~~ も取り寄せ<sup>まし</sup>た。~~の古本~~ 古本は翌年の一月に届

きました。か、~~それは~~ → 16世紀のレコードの算術書

に読みおしめたが、この書物を読んで、~~私は~~ 非常な感動

を受けたのです。それで算術の社会性の研究をまず始め



ることにしました。ところがその研究のために、<sup>これ</sup>~~それ~~まで

読んだ数学史は直接<sup>んはほとんど</sup>~~おま~~役に立ちませんので、<sup>今度は</sup>~~い~~

~~イギリス~~イギリスの社会史~~経済史~~の本を漁って

~~小さな論文~~小さな論文をまとめ、6月6日に「改造」に送

それが  
りました。算術の社会性<sup>算術書</sup>を通じて見たる16世



紀のイギリスの社会経済状態 (改造, 1929年9月号)

で、<sup>史</sup>数学<sup>私の</sup>に関する<sup>す</sup>処女論文で~~カジ~~ (カジ)

1)の説明の足らなかつた点は、この論文でなく、その後

に出した~~数学教育史~~ <sup>改行</sup>で補つたつもりです)。レコードの

~~研究が一応~~ 研究が一応終わりますと、私はすぐに数学の階級性の

18



問題に取りかかりました。これはその前の年の秋に蔵原

惟人さんの訳で読<sup>ん</sup>~~ん~~だ<sup>フーバー</sup>~~フーバー~~の階級社会の芸

術に暗示を得~~考え~~たもので、階級社会の算術。

中

文芸復興時代の算術に対する一考察(思想 1929年8

月) ~~とて~~ 7月4日に「思想」に送<sup>た</sup>たのです。この



数学の社会性、階級性<sup>関</sup>に<sup>つきまして</sup>する論文、<sup>その</sup>時、数学  
 者の方々<sup>が</sup>どのような感想を抱<sup>か</sup>れたか、<sup>の</sup>全然私には知  
 ることができませんでした。ところ<sup>が</sup>、反響はま<sup>う</sup>たく  
 意外な方面から起<sup>こ</sup>した<sup>ためです</sup>。早くも6月15日の大阪  
 毎日新聞は、<sup>✓</sup>数学にも階級性<sup>社会</sup>はある<sup>✓</sup>と題<sup>して</sup>私



の研究の一端を伝えましたし、8月1日の東京朝日新聞

には「階級社会の算術」と題し、文芸評論家の平

林初之輔さんのきわめて好意ある批評が載ったので、

す。そのほか、文芸評論家の勝本清一郎さん、思想家

の三木清さん、戸坂潤君、哲学者の田辺元さん、歴史家



の羽仁五郎さん、経済学者の佐々弘雄さん、こういう方

に、<sup>から</sup>~~い~~ろんな意味での批判と示教も新聞や雑誌<sup>の上で</sup>~~に~~ ~~掲載~~す

<sup>受け</sup>~~た~~たのであります。そ<sup>こ</sup>~~で~~で私もいよいよ本気にな<sup>っ</sup>て

今度は政治史や経済史や教育史などを読み出し~~て~~ ~~て~~ <sup>て</sup>

<sup>まし</sup>仕上げたのが次の<sup>ふ</sup>~~つ~~の論文です、<sup>✓</sup>階級社会の算術<sup>DP</sup>



植民時代における南北アメリカの算術に関する一考察

(思想 1929年12月) 「階級社会の数学」 フランス数

学史に関する一考察 (思想 1930年3, 5, 6月号) こ

のように 私の数学史研究はまず数学の社会性 階級性

の問題から出発したことを申し上げて この話を打ち切



りうと思うのですが、念のために~~次の~~次の<sup>2</sup>つの事柄を

申し添えておきましよう。

□ 1931年には、その夏ロンドンで開かれた第2回国際

科学史及び技術史会議におけるソ連代表団（コールマン、

ヘンセンほか6名）の英文の報告、岐路に立つ自然科学



が出版されました。これは主として科学の社会性、階級

性の問題についての具体的報告でした。1932年の夏に

は、私の<sup>刊行</sup>『☒数学教育史』が~~出版~~されました。これは前年

の広島文理科大学での講義の一部をも修正してとりまと

めたもので、~~すわ~~数多くも読まない原典の研究によ~~り~~な~~る~~て



立場から見た  
社会との関連の ~~もとで、  
文化形態として~~ 数学教育

史とい <sup>つ</sup> た <sup>ま</sup> たく素人の走り書きにすぎな <sup>か</sup> つたので

す <sup>な</sup> れが時事新報の紙上で「<sup>✓</sup>数学教育史というに値す

るほどの本は <sup>✓</sup> 本書の生まれ出るまで世界のどこにも見

出されな <sup>か</sup> つた <sup>✓</sup> という批評を <sup>✓</sup> 東京高等師範の佐藤良



一郎さんから <sup>頂</sup>~~いただいた~~ のでした。 ~~。~~ <sup>△</sup> そして私はこの本の

出版後 ~~。~~ <sup>△</sup> おくに新しい立場から日本及び中国の古い数学

の研究に向かう準備を始めたので ~~す~~ ~~。~~ <sup>△</sup>

← ~~●~~ <sup>ゴッ</sup> ~~社会的背景~~ <sup>△</sup>

~~□~~ <sup>△</sup> しかしなぜ私がこのように ~~立場から~~ 数学史の

研究に進んで ~~い~~ <sup>△</sup> たのか <sup>△</sup> それにつ ~~て~~ <sup>きまし</sup> ては当時の ~~。~~



社会的背景をよく考えてみなければ、~~正確に~~理解するこ

とはできないと思うのです。

第一次大戦のさなかから、当時の世界思潮を反映しま

して、わが国にもデモクラシーの叫びが高くなってきました

した。それはまず科学の大量化、科学思想の啓蒙とな



たので、  
~~まじったこと~~ アインシュタイン<sup>が</sup> 日本各地で~~講演~~  
~~講演~~ (1922年) はそれに大きな契機も与え<sup>て</sup> ~~まじったこと~~  
 石原純さんを初め ~~寺田寅彦, 小泉井~~ といった~~よう~~な方を  
 ヒューマン<sup>イ</sup>ニステ<sup>イ</sup>ック<sup>イ</sup>な傾向の科学思想家たちの啓蒙運  
 動が始められたのでした。一方では1920年の恐慌が



ら関東大震災と続いた大正の末期から、ここに昭和に

りましては ~~社会の風雲の急なる~~ 社会の風雲の急なるを思わせるよう

なものがあると同時に、社会主義が盛んになつてきまし

それで

た、1928年には三・一五事件 ~~共産党の攻撃~~ に続い

て、4月には諸大学の教授連、すなわち京都大学の河上肇



九州大学の向坂逸郎<sup>△</sup> 佐々弘雄<sup>△</sup>などの方々が追い出され<sup>△</sup>

5月には緊急勅令として治安維持法が公布されて<sup>△</sup>危機

の迫るを感じさせられたのです<sup>△</sup>。その翌年<sup>△</sup> 1929年に

それは日本の軍国主義を飛躍的に促進させた重大な危機で

あ<sup>△</sup>~~り~~たとともに<sup>△</sup> 三木清さん<sup>△</sup> 羽仁五郎さん<sup>△</sup>~~の~~の



✓新興科学の旗の下に~~い~~という~~雑誌~~→雑誌が<sup>創</sup>刊~~さ~~され~~た~~

プロレタリア科学研究所の創立によ~~り~~て~~マ~~ル~~シ~~

ズムの研究が~~自然科学の世界~~自然科学の世界にも取り入れら

れる~~時期~~時期に<sup>した</sup>入~~た~~ので~~さらに~~さらに1931年

には満洲事変が起こ~~り~~その翌1932年には戸坂潤君や



岡邦雄君らも中心とする唯物論研究会が創立されて、

✓唯物論研究誌上<sup>△</sup>で科学批判が盛んに行なわれるように

な<sup>△</sup>た<sup>△</sup>~~て~~<sup>〇〇</sup>私の数学史研究~~と~~は、ちようにこ

のような危機<sup>△</sup>も背景として出版したものであります<sup>△</sup>。間

もなく<sup>△</sup>システムが招致し~~ま~~<sup>△</sup>て、軍部と官憲の力によ



△て反動的な文化統制や知育偏重論が唱導され~~た~~<sup>出</sup>した19

34年のころからの私の仕事につきましては~~は~~<sup>は</sup>✓数学者の回

想△(河出文庫) ~~は~~<sup>や</sup>✓一数学者の肖像△(現代教養文庫)

もごらん下さい△

□終わりに臨みまして△数学史についての~~は~~<sup>は</sup>懺悔話を



一つ申し上げます。↗

(改訂版)の

「カジ」り「初等数学史」

上巻

エジプトの記数

法のところ <sup>に</sup> 10万を表わす象形文字を <sup>に</sup> フールボ

トという獣 <sup>して</sup> ~~書か~~ <sup>添へた</sup> それに <sup>には</sup> ~~私の~~ 脚註 ~~も添えて~~ <sup>に</sup> オタ

マジックシダとの説もある <sup>と</sup> ~~書~~ <sup>か</sup> ~~れ~~ <sup>い</sup> ます <sup>は</sup> ~~は~~







えなか <sup>へ</sup>た の ~~その絵もなかめて~~ <sup>して</sup> ~~その絵もなかめて~~ <sup>へ</sup> 獣と思 <sup>へ</sup>

たから 獣と書き添えたのでありましよう <sup>へ</sup>

<sup>□</sup> ところで <sup>へ</sup> 昨年の4月19日付で若い女性の一読者か

ら <sup>へ</sup> burbpt についてこういう質問を受け <sup>たので</sup> ~~は~~ <sup>へ</sup> フリタニ

かなど月ほしい辞書も引きましたところ <sup>へ</sup> すべて淡水魚



でタウの一種としております。しかし実際の記号はけも

の の よ う に 見 え ま す の で、 大 い に 迷 っ て お り ま す。 お 教

えもい<sup>て</sup>た<sup>く</sup>ださ<sup>る</sup>た<sup>く</sup>  
-----  
~~また質問を受けました。~~

で ~~カシ~~ カシヨリ の 別著「教学史」の再版11ページを附

い て み ま す と、 ~~さう~~ さう ~~ありま~~ あります。 カン ト



ルの数学史<sup>△</sup> 巻1<sup>△</sup> 3版<sup>△</sup> (1907年) 82ページを見よ<sup>△△</sup>

そこでカントルを見ますと、~~そこにはこのように書いてある。~~

「フルグシ<sup>△</sup>」の象形文字の文典 (1872年) 33ページを

見よ<sup>△</sup> として<sup>△</sup> Kaulquappe と書いてある<sup>△</sup>。この言葉の英

訳は Tadpole で、すなわちオタマシ<sup>△</sup>クシなのですよ<sup>△</sup>。カジ



ヨリはカントルの文章をそのまま英訳しなから ~~た~~

~~た~~ Kaulquappe をとうかして Aaalquappe と書き違

えたのでないでしうか Aaalquappe の英訳は burbot で

淡水魚なので ~~た~~す (古代史専門の友人 ● 平田寛君

から聞きますと 近ごろの新しい象形文字の文 ~~典~~ にはも



△とオタマジヤ△クシに近い絵が書いてあるとのことですか△

おかしなことに△

△私が一番最初に読んだ数学史フイシクの英訳も今用いて

みましたら△カエルと書いてあります！ 数学史について

う△かり想像や推定をする△とんだことになる△これ

が△オタマジヤ△を獣にした△という私の告白です△

ト×

21